法改正 医療現場の支えに

救急救命士 広がる役割

防災総研がシンポジウム

世田谷キャンパスの会場からオンラインで開催

本学防災・救急救助総合研究所（防災総研）が主催する第10回防災・救急救助シンポジウムが2月20日にオンラインで開催され、「救急救命士法の改正について―施行から30年のあゆみ―」をテーマに、講演とパネルディスカッションが行われた。

防災総研の研究員や在学生のほか一般からも参加者を迎え、講演者に独立行政法人労働者健康安全機構理事長の有賀（あるが）徹氏、一般財団法人日本救急医療財団理事長の横田裕行氏ら有識者を招いて、法改正によって期待される救急救命士の役割などについて考えた。

救急救命士は、病院前救急医療の担い手として、平成3年に救急救命士法の制定とともに誕生した医療資格。昨年10月、施行から30年を経て同法の一部が改正され、気道確保などの救命処置を搬送先の病院内でも行えるようになった。

講演で有賀氏は、高齢化の進展にともない地域の医療介護と連携する重要性を述べ、「大規模自然災害時における救急医療の現場で災害医療を学んだ救急救命士の役割は大きい」と期待を寄せた。また、横田氏は法改正の背景として、高齢化による救急患者の増加と医療現場のひっ迫、医師・看護師の働き方改革を挙げ、それによる救急救命士の活動の場拡大の必要性を説明。そして今後はけがや病気を防ぐ「予防救急」の啓発・普及に関する活躍も期待されると話し、超高齢社会における福祉的側面も含めた救急救命士に求められる役割の広がりについて言及した。

パネルディスカッションでは、防災総研の田中秀治副所長が座長となり、医療機関や民間救急搬送業務に携わるなど最前線で活躍する本学卒業生および防災総研研究員6人が加わり、現状と課題、展望について意見を交わした。

田中副所長は「今回の法改正はまだ一里塚。社会全体を見通した課題解決策を見据えて議論を深めていく必要がある」と話し、最後に防災総研の島崎修次所長が「まさに社会が救急救命士を求め、活動の場を広げていくこととなるだろう」と述べ、3時間にわたるシンポジウムを締めくくった。

防災教育

防災士 295人合格

令和3年度、本学を会場にして実施された計4回の防災士資格取得試験で、本学学生合わせて295人が合格した。

全学部で展開する「防災リーダー養成論」と「防災リーダー養成論実習」の履修学生は、認定特定非営利活動法人日本防災士機構が認証する本学防災・救急救助総合研究所の寄与度の側面から総合的に評価するもので、受賞者の第三者評価による差別化と認知度向上、成果・実績の社会普及を意図して、令和3年に設立された。2回目となる今年は、特別賞を含む4部門で34事業・43団体が選ばれた。

表彰式には、本学防災・救急救助総合研究所の田中秀治副所長が出席し、「国士舘は東日本大震災を契機として、防災教育、被災地でのボランティアを通じて災害時にリーダーとして活動できる人材育成に取り組んでいる。これからも地域・社会に貢献できる若者を育てていきたい」と述べ、受賞の喜びを表した。

開講の防災士養成研修を受講することで、防災士試験の受験資格を得ることができる。

令和3年度は、コロナ禍で受験に必要なカリキュラムを受講できなかった過年度履修者も含め795人が防災士養成研修を経て試験に臨んだ。合格率は93%だった。

本学は、地域社会に貢献できる付加価値のある人材養成の一つとして、平成29年から防災士養成研修実施機関の認定を受け防災士の資格取得を促している。

「狙われる学生」守ろう

FD・SDシンポ開催

本学FD委員会と職員研修委員会による第3回FD・SDシンポジウムが1月29日にオンラインで開催され、教職員約200人が参加した。令和4年4月からの成年年齢改正の内容詳細から、カルト宗教、薬物乱用、マルチ商法など学生が陥りやすい被害を取り上げた「狙われる大学生～学生を守るために教職員ができること～」をテーマに、学内外から専門家を迎え近年の傾向と対策について学んだ。

講演後のパネルディスカッションでは、参加者から寄せられた質問や問題提起に講演者らが回答する形で、より理解を深める内容となった。

また、3月12日にはFD委員会による第26回FDシンポジウムをオンラインで開催し、教員約160人が参加。FD委員会の1年間の取り組み報告とオンライン授業の調査報告を行い、今後の課題を参加者と共有した。

第2部では田邉恵法学部教授による講演「オンライン授業と対面授業における著作物利用と制限」が行われ、教育機関で注意すべき配信での著作権問題について学んだ。

最後に、委員長の長谷川均文学部教授が「今後も、教育者としての質や資質の開発、教育環境の改善に向けて幅広い問題を扱っていきたい」と結んだ。

学術研究奨励賞 35人に授与

あいさつに立つ福永教授と会場の様子

令和3年度学術研究奨励賞授与式が3月11日、世田谷キャンパスの国士舘大講堂で執り行われ、役職者・教職員の立ち会いのもと、佐藤圭一学長から受賞者35人（38件）のうち29人の出席者に表彰状が授与された。

受賞者を代表しモフィディ・タバタバイ・ハメッド理工学部准教授、本山雅弘法学部教授、福永清貴同教授がそれぞれ、謝意と研究活動へのさらなる意気込みを述べた。

佐藤学長は「学問および科学技術の発展に貢献できるよう、引き続き研究に励んでほしい」と期待を寄せた。

学術研究奨励賞は、学術研究活動に優れた功績があった者および外部研究資金の獲得などに寄与した者を表彰するもの。

受賞者は次のとおり（職名は受賞当時）。

【学会賞等】

モフィディ・タバタバイ・ハメッド（理工学部准教授）／山下修平（経営学部准教授）

【著書刊行】

本山雅弘（法学部教授）／吉開多一（同教授）／小林正士（同講師）／後藤貴浩（文学部教授）／松野敏之（同教授）／税所哲郎（経営学部准教授）

【科研費】

阿部武司（政経学部教授）／沼本宏俊（体育学部教授）／熊川大介（同准教授）／山本里佳（同准教授）／羽田克彦（同准教授）／神野誠（理工学部教授）／酒井平祐（同准教授）／位田達哉（同講師）／西村亮彦（同講師）／橋本隆雄（同教授）／和田匡史（同教授）／名越篤史（同准教授）／林一雅（法学部准教授）／鈴木裕之（同教授）／福永清貴（同教授）／川本哲也（文学部講師）／郡司菜津美（同講師）／本間貴子（同講師）／河先俊子（21世紀アジア学部教授）／粟野直之（経営学部講師）

【科学技術振興機構】

大橋隆弘（理工学部教授）／九鬼孝夫（同教授）／横内基（理工学部准教授）

【外部助成】

砂田恵理加（政経学部教授）／大橋隆弘（理工学部教授）／河先俊子（21世紀アジア学部教授）／栗野直之（経営学部講師）／本間貴子（同講師）／郡司菜津美（同講師）／川本哲也（文学部講師）／長谷川均（同教授）

「目覚ましい実績」を評価

防災・減災×サステナブル大賞

特別賞を受賞

賞状を手にする田中副所長

一般社団法人減災サステナブル技術協会が主催する「防災・減災×サステナブル大賞2022」の表彰式が3月19日にオンラインで開催され、本学の「全学部における防災士取得プログラムのカリキュラム化と防災教育推進」とする取り組みが、防災・減災においてより安全・安心な真のサステナブル社会の実現に向け目覚ましい成果・実績を残したとして特別賞を受賞した。

この賞は、防災・減災に関わるさまざまな取り組みを実践している自治体、組織、法人、個人を対象にその成果・実績について、レジリエンス性、サステナブル性、SDGsへの貢献度の側面から総合的に評価するもので、受賞者の第三者評価による差別化と認知度向上、成果・実績の社会普及を意図して、令和3年に設立された。2回目となる今年は、特別賞を含む4部門で34事業・43団体が選ばれた。

表彰式には、本学防災・救急救助総合研究所の田中秀治副所長が出席し、「国士舘は東日本大震災を契機として、防災教育、被災地でのボランティアを通じて災害時にリーダーとして活動できる人材育成に取り組んでいる。これからも地域・社会に貢献できる若者を育てていきたい」と述べ、受賞の喜びを表した。

思い溢れ4教授が最終講義

令和3年度をもって退職する政経学部の的射場敬一教授、体育学部の藤井千惠子教授、理工学部の国広ジョージ健彦教授、法学部の髙野敏春教授による最終講義が行われた。会場には在学生や教職員、卒業生が駆けつけ、最後の講義を聴講した。

学生へのエールで結び降壇

的射場教授

藤井教授

国広教授

高野教授

―政経学部 的射場敬一 教授

的射場教授の最終講義「蟷螂の斧―ペルシア戦争と古代デモクラシー」が、3月10日に世田谷キャンパス34号館で行われた。

講義では、表題となった故事成語「蟷螂（とうろう）の斧」を紀元前490年に起きたペルシア戦争になぞらえ、その経緯と顛末を当時の地理・文化的側面とあわせて熱のこもった親しみやすい語り口で解き明かした。

終了後には教職員からの花束贈呈とともに大きな拍手が送られた。

―体育学部 藤井千惠子 教授

藤井教授の最終講義が2月28日、「出会いから学ぶ」と題して町田キャンパスで行われ、こどもスポーツ教育学科の学生、教員ら約230人が聴講した。

講義では、3人の恩師を紹介しながら、これまでの研究と教員人生を振り返った。

講義の最後には「本学で得た仲間とその絆を大切にして、人生を前向きに生きてほしい」と学生にエールを送った。

学生らから花束を贈られた藤井教授は、拍手の中教壇を降りた。

―理工学部 国広ジョージ 健彦 教授

建築学系・国広教授の最終講義が2月26日、メイプルセンチュリーホール1階大教室で「人生は一度だけ…走り続ける」と題して行われた。会場には在学生や教職員、卒業生らが訪れ、オンライン配信による視聴者を含め約190人が聴講した。

講義では自身の人生についてユーモアを交えながら振り返り「退職後は新会社を設立し、美しい地球を次世代につなぐために、まだまだ走り続ける」と今もなお尽きない熱意を披露して結んだ。

―法学部 髙野敏春 教授

法学研究科が主催する髙野教授の最終講義が3月19日、同じく3月で本学を去る、片山等名誉教授とともに模擬法廷室で行われた。

本学卒業生でもある髙野教授は、存命中の創立者を知る貴重なエピソードを披露するとともに、法学部創設の功労者であり初代法学部長・故中村宗雄教授から受けた薫陶に触れ「教え子としてぶれずに歩んできた」と自らの信念を吐露した。

歯に衣着せぬ〝髙野節〟で、参加した学生・教職員に対し最後に「国士舘発展のため後輩たちに情熱を分け与えてほしい」と締めくくった。

競争的研究課題一覧

令和3年10月～4年3月に採択された研究中の課題

（職名は採択当時）

事業名等	氏名	所属・職名	研究課題等
公益財団法人中冨健康科学振興財団「国際交流助成」	船渡　和男	体育学部 特任教授	ヒトの身体組成、三次元人体形状および歩行中の足底圧分布形状の定量化から健康関連指標を構築する試み
公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団「第44回（2022年度）研究助成」	羽田　克彦	体育学部 准教授	手掌冷却が夏季運動パフォーマンスと疲労回復に及ぼす影響
2022年度学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 公募型共同研究課題「大規模計算科学分野」	関口　宗男	理工学部 教授	格子QCDによるカイラル対称性とスカラー中間子質量生成機構の研究
東北大学金属材料研究所「共同利用研究」	神津　薫	理工学部 准教授	R（Al,Mn）B4（R = Gd~Lu）化合物の合成と硬さ、磁化率と電気抵抗率
公益財団法人カシオ科学振興財団「第39回（令和3年度）研究助成」	位田　達哉	理工学部 講師	立体視180度動画を用いたVR建設現場教材の開発と脳波・脈波モニタリングによる学修効果の評価
公益財団法人JFE21世紀財団「2021年度アジア歴史研究助成」	長谷川　均	文学部 教授	平和の回廊ヨルダン渓谷の景観変化と開発史・地域構造に関する研究

「学習効果実感」 課題も浮き彫りに

「オンライン授業」意識調査

本学は、令和3年度に全体の約2割となる一部科目で実施したオンライン授業に関する教員および学生調査を、昨年12月下旬から約1カ月間実施した。調査項目は、オンライン授業における教員意識と学生満足度を主として、それぞれ学習効果など。学生3361人（回答率約27%）が回答した学生調査結果の一部を紹介する。

オンライン授業（オンデマンド型・資料配信型・リアルタイム型）のうち、「学習効果を実感している」と回答したのはオンデマンド型で75・9%、資料配信型で68・1%、リアルタイム型で80・4%だった。学生の自由記述によれば、オンデマンド型と資料配信型は自己学習ペースに合わせて受講・復習できる点が、リアルタイム型では発言・質問が即時に可能である点が評価された。今後オンライン授業を利用したいかとの質問に「利用したい」と回答したのは60・3%だった。

分析を担当した学長室IR課は調査結果を受け、「オンライン授業は、対面授業の代替として一定の役割は果たせたが、コミュニケーションに難がある性質上、学生はより丁寧なフィードバックを求めていることがわかった」としている。調査結果はmanabaで閲覧することができる。

国士舘史資料室だより

○ 45 ○

『大民』（昭和4年3月）

約90年前の式辞から

国士舘が創立105周年を迎える本年も、修学を終えて社会に羽ばたく卒業生を送り出し、また新たに国士舘の門をくぐる新入生を迎える年度の節目となった。この時期の世田谷キャンパスは、国登録有形文化財（建造物）である国士舘大講堂脇の梅の古木が花を咲かせた後、満開の桜が新入生を迎える風景が恒例である。今回は新収資料『大民』（昭和4年3月・大民倶楽部発行）の概要とともに、掲載の卒業式式辞を紹介しておこう。

大正6（1917）年11月に創立した国士舘は、啓蒙団体の青年大民団を母体としたが、この大民団は機関誌『大民』を発行して主に言論で社会的活動を行った。この『大民』は全4面の新聞で、題字脇に「国士館館報号」とあるように、昭和4（1929）年4月創設の専門学校の詳報を含む国士舘特集号である。1面には、専門学校校長に前文部大臣の水野錬太郎を迎えることや、国語漢文教員養成を主とした新設専門学校の学科課程などが掲載された。

また3面では大正12年に町制に移行した世田谷町の建国祭の様子も報じている。

そして2面には、同年の第2回中学校・第1回商業学校の合同卒業式が掲載された。記事をみれば、2月10日の卒業式は大講堂内に卒業生や来賓・保護者らが集って挙行されている。卒業生約200人の証書のほか「品行方正学術優等賞」「精励恪勤賞」「皆勤賞」なども授与された。中学校校長の柴田徳次郎は、国士舘で学び得た「誠意」「勤労」「見識」「気魄」が今後もなくてはならないとして、次のような式辞を述べている。柴田は、社会では『親切で働く』『分別で根気』ある者が、何時の世、どこでも大事にされます」と述べ、そのためには「不断に『読書し』『実行し』『我が身を反省する』と云う修養の工夫が大事であります」と訓示し、前途に待つ困難を越え将来の活躍を切望するとした。

また商業学校校長の大場信績は式辞で「諸君は或一定の職を持つ人が多数である」が、日々学校で夜間の勉学に励んだことは「敬服に値する」とし、国士舘の「精神」をもって社会での各自の活躍に希望を述べている。

さらに来賓として参列した水野錬太郎は、祝辞で「教育の本質は人を作るにある。学問をした人と云うのは、智も徳も備わっていなければならない」、「学問は智識を得る外に、人としての品性を涵養する事である。学んだ智識を活用するには、人格の光に待って初めてなされるのである」として、国士舘の「精神」は「この人格を磨くにある」との訓示を述べている。

現在まで引き継がれる国士舘の理念が、端的に示された記事と言ってよいであろう。最後に、今回紹介の『大民』は映画史研究家の寺島正芳氏から寄贈を受けた。改めて御礼を申し上げる。

（国士舘史資料室　熊本　好宏）

◆資料提供のお願い◆

国士舘に関する資料や情報のご提供をお願いしています。例えば講義ノートや実習道具、思い出の写真・アルバムなど、学生時代の資料をお寄せください。

【ご連絡先】

世田谷キャンパス　柴田会館内　国士舘史資料室

TEL03（3418）2691

一冊いかが

教務部学術研究支援課　職員　向井理子

『境遇』　著者：湊　かなえ

この物語に込められたテーマは「人と人とのつながり」。ある共通の過去をもつ2人の女性を巡るストーリーで、悲しいすれ違いによって思わぬ方向へと導かれます。2人の女性の視点でストーリーが展開されていくため、読み進めるうちに夢中になります。ハラハラ、ドキドキの前半と、真実が明らかになっていく後半。ある事件の裏に隠された〝真実〟とは何か…気になってページをめくる手が止まらない一冊です。

『境遇』というタイトルには、人は生まれた環境でその後の人生が決まるのではなく、人生は自分で作っていけるものだというメッセージが込められているそうです。

著者の湊かなえさんの作品にはドラマ化や映画化されたベストセラーが多くあります。ドラマは原作と結末が少し異なったり、ドラマにあって小説にはない設定やシーンがあったりしますが、その違いを探すのも楽しみのひとつです。また、著者は「イヤミスの女王」とも呼ばれています。「イヤミス」とは、事件のことだけではない人間の奥に潜む心理などを描写し、見たくないと思いながらも読み進めてしまう、読み終えた後に何とも言えない嫌な気持ちになるミステリーのことです。私は、最近になってその面白さに惹かれ始めました。日常では味わえないような緊張感やスリルの中に、人間のリアルな姿が描かれているからこそ想像力が働き、読み返すたびに、そこには毎回違った感情が湧いてきます。

7年前この本を購入したとき、今、そして数年後手に取るときも、きっと、また違った想像や感情があると思います。

著書紹介

確かな学習状況を見取る 小学校体育の評価規準づくり

共編著　細越淳二（文学部教授）
発行　大修館書店
価格　1980円（税込）

日本綿業史 徳川期から日中開戦まで

著者　阿部武司（政経学部教授）
発行　名古屋大学出版会
価格　7920円（税込）

表現力を鍛える 中級ドイツ語 音読トレーニング

著者　鷲巣由美子（法学部教授）
発行　白水社
価格　2970円（税込）

スポーツ事故の法的責任と予防 競技者間事故の判例分析と補償の在り方

共編著　入澤充（法学部特任教授）
発行　道和書院
価格　2640円（税込）

サステナビリティ・トランジションと人づくり 人と社会の連環がもたらす持続可能な社会

共編著　森朋子（政経学部講師）
発行　筑波書房
価格　2750円（税込）